

015 エジプトからナザレへ

マタイによる福音書 2 : 13~23

▶エジプトに非難する (マタイによる福音書 2 : 13~23)

13 占星術の学者たちが帰って行くと、主の天使が夢でヨセフに現れて言った。

「起きて、子供とその母親を連れて、エジプトに逃げ、わたしが告げるまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデが、この子を探し出して殺そうとしている。」

→エジプトは、ローマの属州で、かつては、イスラエルの民を奴隷にした国であった。しかし、ここでは逃れの地 (場) となっていて、当時 100 万人位のユダヤ人がおり、ユダヤ人共同体をつくっていた。

14 (すぐに) ヨセフは起きて (→立って)、夜のうちに (密かに) 幼子とその母を連れてエジプトへ去り、
15 ヘロデが死ぬまでそこにいた。それは、「わたしは、(イスラエルの民が救われたように) **エジプトからわたしの子を呼び出した**」と、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。

→まだ幼かったイスラエルをわたしは愛した。エジプトから彼を呼び出し、わが子とした (ホセア書 11 : 1)。

16 さて、ヘロデは占星術の学者たちにだまされたと知って、大いに怒った。そして、人を送り、学者たちに確かめておいた時期に基づいて、ベツレヘムとその周辺一帯にいた二歳以下の男の子を、一人残らず殺させた。

17 こうして、預言者エレミヤを通して言われていたことが実現した。

→主はこう言われる。ラマで声が聞こえる／苦悩に満ちて嘆き、泣く声が。ラケルが息子たちのゆえに泣いている。彼女は慰めを拒む／息子たちはもういないのだから (エレミヤ書 31 : 15)。

18 「(エルサレムの北にある) ラマで声が聞こえた。激しく嘆き悲しむ声だ。ラケルは子供たちのことで泣き、／慰めてもらおうともしない、／子供たちがもういないから。」

→ベツレヘムの母親たちは自分の息子を失い、嘆き悲しんでいる。

19 (BC 4 年に) ヘロデが死ぬと、主の天使がエジプトにいるヨセフに夢で現れて、20 言った。

「起きて、子供とその母親を連れ、イスラエルの地に行きなさい。この子の命をねらっていた者どもは、死んでしまった。」

21 そこで、ヨセフは起きて、幼子とその母を連れて、イスラエルの地へ帰って来た。

22 しかし、(ヘロデ大王の息子の一人) アルケラオが父ヘロデの跡を継いでユダヤを支配していると聞き、そこに行くことを恐れた。

ところが、夢でお告げがあったので、ガリラヤ地方に引きこもり、
23 ナザレという町に行き住んだ。「彼はナザレの人と呼ばれる」と、預言者たちを通して言われていたことが実現するためであった。
→実際は、聖書のどこにも「彼はナザレの人と呼ばれる」という預言はどこにもない。

→聖書に、アルケラオの名前は、この聖句にしか登場しない。

アルケラオはガリラヤ地方での権限は一切持っていなかったため、ヨセフはマリアやイエスと共にガリラヤで安全に暮らした。

